

## 2024年3月例会報告

### 常総沿線を歩く（下館～下妻）常陸南朝終焉の地をめぐる

開催日	2024年3月9日（土）
集合場所	JR水戸線・関東鉄道常総線 下館駅南口
集合時間	8時30分～9時 9時15分スタート
コース	下館駅南口～旧下妻街道～黒子駅～木戸神社（昼食） ～天狗党飯田軍蔵碑～関城跡～大宝八幡宮（大宝城跡） ～下妻駅東口
ゴール時間	13時40分
距離	19km 団体歩行
参加者	18名
天候	晴れ

#### ウォーキング状況

今回のコースは常総線を歩くのですが、下館駅から黒子駅迄は旧下妻街道、それ以降は街道を外れて常陸南朝の終焉の地、関城跡、大宝城跡を経て最後は旧下妻街道に戻り、ゴール地点の下妻駅にゴールです。

旧下妻街道は、中川の自然堤防上に築かれた古道です。その起源は平安時代の「奥州古道」にさかのぼり、前九年の役（1051年）、後三年の役（1083年）の際、源頼義や義家らの軍勢が通ったとされています。

近世に入ると、日光街道と水戸街道の中間に位置し、茨城県下妻方面への脇往還として利用されました。千住宿で水戸街道と日光街道に分かれ、吉川、水海道、下妻を経由し、さらに北上して喜連川宿で奥州街道と合流します。全長約150キロメートルですが、今回はその一部（約12km）を歩きます。

下館駅を出発し、筑西美和線（県道23号）を暫く歩き、国道294号線を過ぎた所で、右側の細い道に入ると、小さな祠や馬頭観音の碑が点在していて旧街道の雰囲気漂います。大谷川を横切ると両脇は民家や畑となります。旧道であるので車の通行も少なく、民家も昔の面影があり楽しく歩けます。更に、左手には筑波山が見え、歩くに従って山頂の形が変化していることに気が付き、新しい発見をしました。

筑波山は女体山（877m）と男体山（871m）の二峰から成ると思っていましたがこれは筑波山の南側から眺める風景で、西側（今回）から眺めると、第三の山頂、坊主山（710m・三角点有）が左に見え、右から男体山、女体山、坊主山と三つの峰があるそうです。この図柄が車のつくばナンバープレートの図柄になっています。



三つの峰が下妻に行くに従って女体山が男体山の影になり二つの峰になる  
更に南に行くと、坊主山が男体山の影になり、女体山が見えてきて、見慣  
れた二峰の筑波山となります。

筑波山のビューポイントで有名な母子島遊水池を紹介しておきます。  
逆さ筑波山、ダイヤモンド筑波山などの写真が撮れるそうです。  
桜の名勝でもあるそうです。



2時間程歩くと黒子駅到着です。ここでトイレ休憩後、木戸神社にて昼食  
を行いました。この神社の脇にはこの地区に有った石碑や仏像が大切に  
保管されていて、この地区の昔を大切に作る心を感じました。  
休憩後、幕末の水戸藩天狗党の一員、飯田軍蔵がこの地の生まれで、その  
碑があり、それを見学した後、関城の攻略にいきます。  
関城は大宝沼で囲まれた立地を利用して築かれたお城です。今までは台地  
を歩いてきましたが、坂を下ると両側に台地があり、谷の地形になってい  
ます。今は水田等になっていますが、昔は大宝沼となっていました。  
右手の高台の林が関城跡、前方のかなり先には大宝城跡の林が見えています。  
二つのお城はこの大宝池で守られていたことがわかります。

関城の林から坂道を登り、北朝の高師冬が城を攻めるために掘った坑道、城のお濠、土塁及び城主関宗裕の墓を見学し、今から800年前の北関東武士の想いを感しました。  
この地で北畠親房が天皇の歴史書「神皇正統記」を完成させました。



再び坂を下り谷を暫く進むと、大宝城跡の北側に到着です。大手門は南側ですが、今回はこちらから登りました。  
城主下妻政泰碑及び大宝八幡宮に参拝、鳥居先に城跡の土塁を見学して今回のイベントは終了です。  
八幡宮からは旧下妻街道に戻り、下妻駅近くで街道から別れて駅に到着ゴールしました。

茨城の南朝時代については、事前に連絡したユーチューブ「茨城県の南北朝時代」を検索してご覧になって下さい。

以 上

記 松崎 寛

余談 今話題になっている生成AIを試してみました

入力は

下館から下妻へ旧下妻街道を歩きました。左手に見える筑波山の山頂の風景を楽しみながら、黒子駅からは南北朝時代に関係ある関城、大宝城を見学しゴールしました。このレポートをかきたいのですが。

回答は次のページ

もう少し、入力を工夫しなければなりませんね。

生成 AI の回答

## 下館から下妻への旧下妻街道歩行レポート

### ルート詳細

出発地: 下館

到着地: 下妻

距離: 約 19.8 km

経由地: 北千住・荒川土手・綾瀬川・大原・中川堤通・鶴ヶ曾根・八条橋・  
女体神社・旧千疋村・吉川

### 歴史的背景

- 下妻街道は中川の自然堤防上に築かれた古道で、平安時代の「奥州古道」にさかのぼります。
- 前九年の役（1051年）や後三年の役（1083年）の際、源頼義や義家らの軍勢がこの道を通ったとされています。
- 近世に入ると、日光道中と水戸街道の中間に位置し、茨城県下妻方面への街道として利用されました。

### 旅のハイライト

- 荒川土手: 荒川放水路のある場所で、昭和以前には人工的に掘られた川でした。
- 内匠橋: 綾瀬川を渡る橋で、武士芦川内匠に由来します。
- 赤稻荷神社: 赤い屋根で知られる神社で、創建年代は不明です。

### 総括

下妻街道は歴史的な古道であり、美しい風景と歴史的な名所が点在しています。  
素晴らしい旅行体験をありがとうございました！

---

このレポートを元に、さらに詳細な内容を追加していただければ、素晴らしいレポートが完成することでしょう。お楽しみください！